100年、飛翔のキセキ

次代を見据え、時代に挑み続けたこの軌跡を、
次の奇跡につなげて。
100年先の大空へ、
新たなる挑戦はすでに始まっています。

本学園は、設立者・校主 本庄京三郎、校長・工学博士 片岡安と12人の創設理事などが開校に向け尽力し、1922（大正11）年9月7日、時の大阪府知事 池松時和氏から設置認可を受け創設した関西工学専修学校がそもそもの始まりです。

時代と地域の要請に応え、中堅技術者育成を目的に開校した関西工学専修学校は着実にその役目を果たし、多数の卒業生が地域で活躍。それを受け技術者教育を看板としたさまざまな学校を併設する技術系総合学園として展開し、やがて高等教育をも担うまでに発展しました。現在では、大阪工業大学・大学院、摂南大学・大学院、広島国際大学・大学院、常翔学園中学校・高等学校、常翔啓光学園中学校・高等学校を設置する総合学園へと成長を遂げ、約2万5千人の学生・生徒が学んでおり、延べ約31万人の卒業生が社会の各分野で活躍しています。

2022年、学園は創立100周年を迎えます。永い歳月の中、常に「変わらない信念」を抱き続け、そして、時代の要請に応え「変わり続ける」ことで、常翔の名の如く飛翔100年という大きな節目を迎えます。

片岡安初代校長による創設期生徒へのメッセージ

私が言う「立派な人」とは誰でも尊敬する各方面より見て得がたい、頼もしい人となって欲しいのであります。これが国家社会の要求する人であり、家族友人も要求するところの人であります。

かくのごとく人となるには如何にすればよいかと申しますに、そもそも人は努力、心掛けによって全知全能に近いものになりうるのであります。人によってはその能力を伸ばし得るものと伸ばし得ないものがあります。ある程度までしか伸び得ぬ人もありますが、すべての困難を排して迄ずかんとする真剣味のある人はその目的を達することであるのであります。ちょうど、一歩一歩を踏みしめて山に登るようなものであります。これは人生の極致であります。このような人は野心大望を持たなくとも周囲より尊敬され指導者となり得る人であります。人を指導する人になり得ることも少なくともその周囲の人々の指導者となり、明星となり得るのであります。

かかる人はやがて大いなる星となり得るに定まっています。（中略）諸君も一歩一歩緊張味を持って自己のベストを尽くしてやっていれば、やがて、向上発展の途が開けて来るのであります。最初から五段も六段も跳び上がるということを期待するのは間違いであります。こうして終局において高いところから大きい範囲を支配し得るに至るのであります。

―関西高等工学校卒業式訓示から―

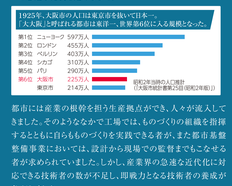
本庄 京三郎
ほんじょう きょうさぶろう
設立者・校主
1868年岡山県生まれ。1891年東京法学院（現 中央大学）卒業。日本有数の規模を誇るまでに至られた京浜市学電鉄の開発をはじめ多くの企業経営に携わるなど、新しい街づくりを進めた実業家でした。

片岡 安
かたおか やすし
初代校長・理事長
1876年石川県生まれ。1897年東京帝国大学工科大学（現 東京大学）卒業。大阪市市参公設置令は1次・数多くの建築設計に関わる。日本建築協会、大阪工業会理事長、京都帝国大学講師などを務めた都市計画のパイオニアでした。

学校創設の時代背景

時代は技術者育成を急がせた。

大正期から昭和初期の大阪市は、これまで築いてきた商工業都市としての基盤に加え、市域の大幅な拡張もあって人口や経済規模において東京市を凌駕し、日本で最も繁栄する都市へと急速な発展を遂げました。



都市には産業の根幹を担う生産拠点ができ、人々が流入してきました。そのようななかで工場では、ものづくりの組織を指揮するとともに自らものづくりを実践できる者が、また都市基盤整備事業においては、設計から現場での監督までもこなせる者が求められていました。しかし、産業界の急速な近代化に対応できる技術者の数が不足し、即戦力となる技術者の養成が急がれました。

当時、わが国の工業教育に対する認識は浅く、特に商業中心の大阪での工業教育機関は微々たるものに過ぎませんでした。このような時代に、将来、工業技術者の必要な時代が必ず到来することを察知し、私立学校の経営では最も難しいといわれる工業教育に、あえて踏み切った関係者のパイオニア精神は注目に値します。

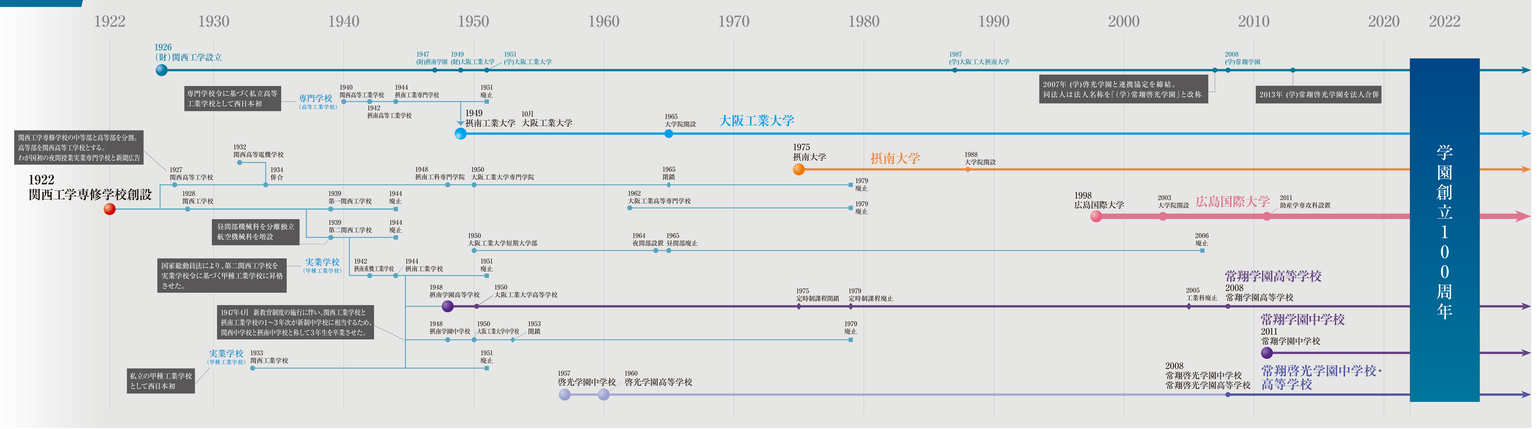
「立派な人、明星となれ、そして大いなる星に向かえ。そのために、自らの一歩一歩に緊張味を持ってベストを尽くせ！」

「急速な発展により、産業を支え、あるいは都市としての基盤整備を担う技術者が絶対的に不足。」

学校法人常翔学園は、2022年10月30日に創立100周年を迎えます。

常翔学園 広島国際大学
いのちのそばに。ひとととともに。

学園のあゆみ Since1922



広島国際大学history Since1998

「いのちのそばに。ひとととともに。」の想いを胸に歩む

1998（平成10）年に保健医療学部と医療福祉学部の2学部でスタートした広島国際大学は、その後、看護学部、薬学部、総合リハビリテーション学部、健康科学部、健康スポーツ学部を開設。現在は6学部11学科を擁する大学へと成長を遂げています。
健康・医療・福祉分野の総合大学として、「ひとと共に歩み、こころに届く医療を実践する専門職業人の育成」を目的に掲げ、地域と社会の未来に貢献しています。また、「健康寿命」の延伸に関する地域の拠点として、教育・研究・社会貢献を行っています。

■ 教育の理念

本学における教育は、命の尊厳と豊かな人間性を基本理念とする。
この理念に基づき、新しい時代が求める専門的な知識と技術の修得を進めるとともに、健康、医療、福祉の分野において活躍しうる職業人を育成する。

Message from the President 学長 焼廣（そがひろ） 益秀（ますひで）

「ともにしあわせになる学び舎」－個人および社会全体のwell-beingをめざして－

広島国際大学は「保健・医療と福祉を軸に世界平和を創造する大学」という理念の下、1998年に開学し、現在では、日本でも有数の広く健康・医療・福祉分野における専門職業人を養成する大学に成長しました。2016年からは「ともにしあわせになる学び舎」を将来像として、多様な人々との交流や連携を重視した活動を進めています。ここでいう「しあわせ」は、政府の「経済財政運営と改革の基本方針2021」（骨太の方針）でもとりあげられ、post SDGsとしても注目されている「well-being」に相当するものです。2022年の学園創立100周年、そして2023年の本学開学25周年を機に、誰もが「しあわせ」を実感できる明るい未来へ向けて、活動を加速化していきます。

1998年 開学・学舎竣工記念式典

1998年 第1回入学宣誓式

1999年 第1回大学祭

2005年 第1回市民交流音楽祭（東広島・講堂）

2010年 第1回広島国際大学 健康フェア（広島市内）

2011年 子ども向け体験イベント

広島DAY（2014年～2018年）

2017年 アジア女子・福祉教育研修センター開所記念式

2018年 広島市民大学

2019年 呉キャンパス3号館（教育会館）

2020年 Active Wellness Center（東広島）

1998年東広島（開学時①）

1998年東広島（開学時②）

2002年東広島

2002年頃呉（開設前）

2012年東広島①

2012年東広島②

2012年呉①

2012年呉②

2020年東広島

2020年呉

社会の動き

1998 長野冬季五輪開催
2000 介護保険制度スタート
2001 9・11米国同時多発テロ事件発生
2002 日韓共催サッカーW杯開催 初の日朝首脳会談開催、日朝平壌宣言に署名
2004 国立大学の法人化がスタート
2005 個人情報保護法が全面施行
2006 神戸空港開港
2007 郵政民営化スタート
2008 リーマン・ショックで世界同時不況に
2009 裁判員制度がスタート
2011 東日本大震災 福島第1原発事故
2012 東京スカイツリー開業
2014 御嶽山噴火、戦後最悪の火山災害
2015 「18歳選挙権」 改正公職選挙法が成立
2016 マイナンバーカードの交付開始 熊本地震
2018 大阪北部地震、台風21号で大きな被害 西日本豪雨で広島・岡山などに記録的大雨と被害
2019 元号が令和に改元 ラグビー・W杯 日本大会開催（アジア初）
2020 新型がたC1難民 新型コロナウイルス 感染症パンデミックに
2021 第1回大学入学共通テストを実施 1年の延期を経て 東京オリンピック・パラリンピック開催

学校法人常翔学園 Josho Gakuen
大阪工業大学 摂南大学 広島国際大学 常翔学園中学校・高等学校 常翔啓光学園中学校・高等学校